



## 博物館の学校利用

# 学校の博物館利用のさまざま 今年度の傾向を紹介します

修学旅行 釧路管内、根室管内、網走管内の小学校が修学旅行の訪問先を選んでいきます。今年度は、17校が来館し、レプリカづくりや展示見学をおこないました。従来は展示の解説を求められるのが普通でしたが、今年度は事前に学習したことを自ら確かめるといった課題設定の学校が複数あり、足寄博物館訪問が定着してきたようです。



修学旅行定番の記念写真ばかりでなくじっくり観察する姿も

総合学習 学校によってとり組む内容がさまざまですが、時間をかけて博物館を利用する学校、職業体験での来館が目立ちました。

前月号で紹介したように、仙美里中学校の2年生9名(全員)は、総合的な学習の時間で職業体験を課題とし、その職場として足寄博物館を選び、10時間かけてウマの骨格を組み立てました。成果は秋の文化祭で展示されるそうです。

芽登小学校でも大計画が進行しています。数十時間をかけて、地球のむかしをカレンダーにまとめます。まず、螺湾地区で地層観察・化石採集です。何百万年・何千万年前の生き物や海底の泥がどうなっているか、まず身体で実感します。

足寄中学校・足寄高校の生徒も希望者が職業体験に訪れ、館の仕事を体験しました。

大地のつくり 小学校6年生の理科(土地のつくり)の授業としての利用は、足寄小学校をはじめ9校です。今年の特徴は野外です。「地層の観察と化石採集ができるところを紹介して+現地での指導も」との依頼がありました。独自に地層を観察してからの来館もあり、野外で実際の自然を体験し、さらに博物館を利用する学校が増えてきました。



地層観察の後、川の水が砂利を運ぶようすを実験した足寄小学校6年生(螺湾川)

## 南極関連資料をいただきました

南極海に大量に生息するオキアミ。現在・過去を通して地球上最大の動物であるシロナガスクジラをはじめこの海域に住むヒゲクジラ類やアザラシなどの主な餌生物として知られています。その他にも、南極海にはオヨギゴカイ（多毛類）やクリオネなどの軟体動物がプランクトン（浮遊性生物の総称）としてたくさん生息しています。

このたび、芽室町の平譚正勝さんから、これらの標本をいただきました。永年南極の調査をされているご子息から提供されたものです。これら生物資料とともに、南極海の1000mの海底に沈めた発泡スチロール製のカップ麺容器もいただきました。およそ100



気圧の水圧を（均等に）受けるとどうなるかを試したもので、容器は全体に圧縮され小さくなっています。

当館の展示中最大の資料であるマッコウクジラは、2000mの深海に潜って主食のイカをさがして食べるといわれています。マッコウクジラの身体は海中では小さくなっているのでしょうか???

1000mの海中で縮んだカップ麺の容器（右）

## 化石工房 フォストリー 化石工房で化学実験

このたび、足寄中学校の生徒ら22人が参加して、化学実験教室が開かれました。東京大学教養学部化学部の学生さんたちがボランティアとして参加、主催したものです。

従来、各地の中学校を回って実施していました。昭和40年には、茂喜登牛中・上利別中・芽登中・喜登牛中・大誉地中でもおこなわれたことがあります。

中学生たちは、色の変化など工夫された実験課題に楽しく取り組みました。



## 休館日 || 11月 1日、8日、15日、22日、29日

博物館の動き 11月（館の行事や職員の動き、来館団体の一部、など）

10月		11月 6日	ボーイスカウト釧路第6団
25日	芽登小学校3～5年生総合学習	10日	清水小学校6年生
30日	あしよろ自然教室（シオワッカ・ほか）	12日	十勝管内博物館学芸職員協議会研修会 帯広大谷短期大学（音更町）
		15～24日	博物館実習受け入れ
		16～21日	音更小学校（3クラス）
		18日	木野東小学校
読売旅行社旭川支店企画旅行	12回来館予定（11月）	30日	国際協力機構南アジア教員養成学校の先生方